

目的 下肢形状とスカート丈との関係を審美面より把握するために、第1報において若い女性の下肢形状を取り上げ、その測定値を用いて類型化を行い、代表的な下肢形状の被験者を選出し、更に第2報においてはそれらの被験者に丈の異なるタイトスカートを着用させ、下肢形状とスカート丈との関係について検討を行った。そこで、本報においてはタイトスカート同様、代表的な形態であるフレアースカートを取り上げ、その美的効果にはどのような形態因子が影響しているかについて検討した。

方法 第2報と同様の素材を用いて、スカート丈を40~80cmの間で8段階に設定して作成した全円のフレアースカートを、先の6名の被験者に着用させ、それをカラースライドにおさめた。それらの下半身をプロジェクターにより投影し、50名の検査者を用いて、下肢形状とスカート丈が調和している—調和していない、気軽な—あらたまった、上品な—下品な、大人っぽい—子供っぽいの4形容詞対について5段階評定の官能検査を行った。得られた結果を数値化し、相関係数及び重回帰分析等の手法を用いて検討した。

結果 調和している—調和していない、上品な—下品なに関しては、下肢の幅に関する項目が大きく影響し、いずれの項目も細い方が良い評価を得ているが、上品な—下品なはタイトスカートに比べ、かなりスカート丈も影響しているといえる。なお一般に多く着用される65cmはタイトスカート同様、その評価は低くなっている。また気軽な—あらたまった、大人っぽい—子供っぽいについては、スカート丈が最も大きく影響しているが、大人っぽい—子供っぽいはその他に下肢の幅とも大きな相関があるといえる。